

日本都市計画学会

学 会 賞

特別功労表彰 功績賞・国際交流賞

2018年 年間優秀論文賞

受賞一覧ならびに授賞理由書

公益社団法人

日本都市計画学会

目 次

1. 学会賞

1) 受賞作品	1
2) 選考経過	2
3) 授賞理由	
(1) 論文賞	3
(2) 計画設計賞	3
(3) 石川奨励賞	4
(4) 論文奨励賞	4

2. 特別功労表彰 功績賞・国際交流賞

1) 受賞者	7
2) 選考経過	8
3) 授賞理由	9

3. 2018年 年間優秀論文賞

1) 受賞論文	11
2) 選考経過	11
3) 授賞理由	12

日本都市計画学会 学会賞受賞者・受賞作品

(受賞者敬称略)

<論文賞>

持続可能な都市構造に関する横断的研究

谷口 守

都市計画の思想と場所 日本近現代都市計画史ノート

中島 直人

<計画設計賞>

三鷹中央防災公園・元気創造プラザ整備事業

三鷹市
独立行政法人都市再生機構

<石川奨励賞>

町並み保存運動の論理と帰結 小樽運河問題の社会学的分析

堀川 三郎

神戸 閤市からの復興——占領下にせめぎあう都市空間

村上 しほり

<論文奨励賞>

統合モビリティサービスの計画・設計手法に関する研究
-主体間の相互関係を考慮した分析手法の提案と適用-

藤垣 洋平

観光地都市計画に関する研究 -戦前期から1960年代までに着目して-

西川 亮

米国の人口減少対応型都市計画に関する研究

-空洞化地区に対処するマスタープランの策定方法とその実践に着目して-

矢吹 剣一

大規模・超高層都市施設における三次元的視点からの都市装置の最適配置と運用に関する基礎的研究

磯部 孝之

ミャンマー国ヤンゴン市の都市形成における公園の成立とその変容

平野 邦臣

日本都市計画学会

学会賞 選考経過

2018年度学会賞は、会員が推薦した石川賞候補4件、論文賞候補2件、計画設計賞候補2件、石川奨励賞候補1件、論文奨励賞候補5件、計14件が審査の対象となった。

表彰委員会（学会賞選考分科会・委員全16名）は各々の候補の業績について複数の担当審査委員が独立に査読および調査を実施し、各委員から提出された評価にもとづき、分科会で慎重に検討の結果、授賞候補を選定した。

特に評価の分かれた案件については委員会席上でその結果を照合、討論、協議し、分科会の最終審査結果とした。さらに分科会の審査結果を理事会に諮って、論文賞2件、計画設計賞1件、石川奨励賞2件、論文奨励賞5件の授賞を決定した。

(参考)各賞の授賞対象

論文賞

都市計画の進歩、発展に顕著な貢献を認められる研究論文を近年（概ね過去3年以内）発表した会員（個人）を対象とする。

計画設計賞

都市計画に関する計画、設計、事業などに関する近年（概ね過去3年以内）の作品で、都市計画の進歩、発展に顕著な貢献をしたものを対象とする。

石川奨励賞

都市計画に関する独創的または啓発的な業績により、今後の都市計画の進歩、発展に寄与しうる貢献をした個人または団体を対象とする。

論文奨励賞

都市計画に関する将来性・発展性が顕著な研究論文を最近（過去1年以内）発表した会員（個人）を対象とする。

論文賞	
受賞者	谷口 守
作品名	持続可能な都市構造に関する横断的研究
授賞理由	<p>先進モビリティの導入に関する研究、コンパクトシティとネットワークの構造に関する研究、デジタル時代の地域交流に関する研究に関する都市計画論文集掲載の 10 編の査読付論文をまとめた本業績は、テーマ選択の独創性、手堅い手法を軸とする分析の信頼性、分析結果からの実務的、実際的な政策的知見のアピール性など、氏の卓越した能力がいかに発揮されている。</p> <p>わが国の都市が直面する様々な課題を踏まえ、持続可能な都市を実現するために、都市構造、交通行動とそれらの相互作用について、氏が長年蓄積してきた研究の上に得られた貴重な成果である。</p> <p>以上から氏の一連の研究は、都市計画研究の進歩、発展に大いに貢献したものと認められ、日本都市計画学会論文賞に相応しいと判断した。</p>

論文賞	
受賞者	中島 直人
作品名	都市計画の思想と場所 日本近現代都市計画史ノート
授賞理由	<p>本論文は、2018年8月に出版された書籍であり、日本近現代の都市計画史に関し、著者が十年余の間に発表してきた 25 編の論文を元にした研究業績の集大成である。</p> <p>本書は、大量の文献研究と各所の実地見聞に裏付けられた豊富な知識をもって、都市の成り立ちに関与した人々の計画行為の内に潜む思想を焙り出すとともに、近現代史の中で形成された各所の場所性を探求するといったアプローチによって、都市計画史研究において独自の視座と方法論を確立している。また本書は、約 400 頁に及ぶ大作でありながら、記述に無駄がなく、文体が研ぎ澄まされており、歴史研究書に相応しい文学性をも有している。論文としての完成度も高く、研究素材や検討されている理論の蓄積は、都市計画研究の進歩、発展に大いに貢献したものと認められる。</p> <p>以上のことから、日本都市計画学会論文賞を授与するに相応しいと判断した。</p>

計画設計賞	
受賞者	三鷹市 独立行政法人都市再生機構
作品名	三鷹中央防災公園・元気創造プラザ整備事業
授賞理由	<p>本事業は、青果市場移転跡地 2.0ha に一時避難地となる防災公園、総合スポーツセンター及び生涯学習センター等の公共施設を総合的に整備したもので、三鷹市の依頼を受け、UR 都市機構が公園と市街地を一体的に整備する防災公園街区整備事業により計画、整備を行ったものである。優れた点は以下である。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①移転跡地を活用し、周辺市街地を含めて老朽化公共施設の機能更新を実現したこと。 ②防災公園、地下のアリーナ、廃熱活用プールの整備を一体的に行い土地の有効利用が図られたこと。 ③両施設が一体として防災拠点として活用できる内容の施設構成としたこと。 ④隣接するゴミ処理施設の排熱による発電電力を運営管理に活用し、グリーンインフラ化の取り組みがなされていること。 <p>これらは、都市内に発生する工場跡地等の活用事例として類例のないものであり、都市計画の進歩・発展に顕著な貢献をしたものと認められる。以上の点から、日本都市計画学会計画設計賞に相応しいと判断した。</p>

石川奨励賞

受賞者 堀川 三郎

作品名 町並み保存運動の論理と帰結 小樽運河問題の社会学的分析

授賞理由

本書は、小樽運河保存運動について、街並み保存運動の経緯、小樽市と行政の分析、保存運動への参加者を分類してその動機等の分析を行い、運動全体を総括している。第一に、社会学的な視点と手法を用いて、深くかつ複合的な観点からのデータ収集と考察を行うことによって、独創的で多方面にとって有意義な事例分析がなされている点が評価できる。第二に、運河保存と道路建設事業という出来事の解明と解釈にとどまらず、そうした都市空間の変質が、観光化という文脈の中で地域をどのように変えていったのかに踏み込んで論じており、長期的で、かつ生きた都市・社会史研究として高く評価できる。これらは、30年以上の長期にわたる著者の継続的な調査研究によってはじめてなしたものであり、資料的価値も極めて高い。以上より、本書は筆者が提唱する「歴史的環境保全の社会学」、および都市計画の今後の進歩、発展に十分寄与しうると考えられることから、日本都市計画学会石川奨励賞に相応しいと判断した。

石川奨励賞

受賞者 村上 しほり

作品名 神戸 閘市からの復興——占領下にせめぎあう都市空間

授賞理由

本書は、神戸における閘市の生成と展開過程の実態をつぶさに明らかにし、戦後復興に向かう多様な個人と集団の葛藤の中で新たな都市環境が生成する様を、社会と空間との相関的な変容プロセスとして描き出している。占領期と復興期の神戸での都市生活や都市構造の変容過程を、復興の日々を歩む商業集積の動向から捉えており、その視点と方法論は独創的かつ先駆的だと評価できる。

加えて、閘市撤去から都市形成へとつながる時期における計画主体としての自治体の動向や、公と協働して新たな商業集積を築いた人々の各種団体との関係、その背景となる占領下の神戸を規定した連合国占領軍の土地・建物の接收や街路空間の管理の具体的姿など、地方の戦後都市計画史の検証や評価のために必要な歴史的事実を発掘しており、今後の研究に対しても一定の知見を与えている。

よって、同書の成果や研究手法の展開、発掘した事実を通じ、都市史研究の進歩および都市計画の発展に寄与しうる貢献をしており、日本都市計画学会石川奨励賞に相応しいと判断した。

論文奨励賞

受賞者	藤垣 洋平
作品名	統合モビリティサービスの計画・設計手法に関する研究 -主体間の相互関係を考慮した分析手法の提案と適用-
授賞理由	<p>本論文は、MaaS (Mobility as a Service) が注目を集める以前から、統合モビリティサービス (IMS: Integrated Mobility Service) の計画に関する方法論の構築に取り組み、利用者と供給者の短期及び中長期の意志決定の相互作用を扱う分析枠組み「Multi-Cycle Model」の提案をベースとして、大都市圏および郊外部における IMS 導入の検討を行い、手法の活用可能性を示した研究である。</p> <p>IMS や MaaS の実現が交通や都市に大きな影響を及ぼす変革の時代への入り口において極めて時宜を得たテーマを対象としており、IMS の導入に向けた体系的な整理と同時に地域での応用例を示した分析を行っている点で特に優れている。その結果、一定の条件の下ではあるものの都市交通計画の実務への貢献と今後の発展が大いに期待される成果を得ている。以上の理由から、日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。</p>

論文奨励賞

受賞者	西川 亮
作品名	観光地都市計画に関する研究 -戦前期から 1960 年代までに着目して-
授賞理由	<p>本研究は、戦前期から 1960 年代までの観光地における都市計画の展開を明らかにし、「観光地都市計画」という特徴を見出した研究である。</p> <p>各時代の観光地空間の計画論の展開、詳細な事例研究、都市計画決定理由書の分析を丁寧に行い、都市部の都市計画、観光地の計画論、観光行政との対比から整理し、「観光地都市計画」のあり方を提言している。</p> <p>これまで都市計画研究の多くが大都市を対象とし、地方都市の観光に関しては、ほとんど論じられてこなかった。今後、日本において観光の役割はますます重要になると思われるが、そこに都市計画が積極的に関与し、より深く地域の魅力を創造すべきと結論づけた本論文は、新たな都市計画概念を提示すると共に、さらに研究の発展が期待できるという点で日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。</p>

論文奨励賞

受賞者	矢吹 剣一
作品名	米国の人口減少対応型都市計画に関する研究 -空洞化地区に対処するマスタープランの策定方法とその実践に着目して-
授賞理由	<p>本研究は、人口減少都市における都市計画の再定立というテーマに関し、マスタープランのみならずゾーニングも改定した米国の Youngstown 市と Flint 市を対象とし、策定経緯から策定後の実践に至るまで網羅的・包括的に分析している。両市を対象とする既往研究は少なくないが、本研究は人口減少型都市計画の展開状況の把握から、要因の解明、実践手法の分析、計画理論上の位置付けという俯瞰的な目的設定を行うとともに、空き家・空き地への対処、政策単位としての自治体、マスタープランの位置付けという複眼的視点に立っている点で新規性と独創性が見られる。特に、生活像再考の媒介としてマスタープランの可能性に着目している点は、マスタープランのあり方について発展性を期待させる。また、日本への示唆を意識した考察を行っている点で、有用性も評価できる。</p> <p>よって本研究は、日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。</p>

論文奨励賞

受賞者	磯部 孝之
作品名	大規模・超高層都市施設における三次元的視点からの都市装置の最適配置と運用に関する基礎的研究
授賞理由	本研究は、巨大高層ビルの、とくに高層階で発生する救急患者に、救急隊が短時間で到着できないことに着目し、モデルを用いて高層建築内の2地点間の移動時間の分布を算出し、救急患者に対応するためのエレベーターやAEDの最適配置を論じた研究である。研究の背景となる大都市の「3次元巨大都市化」についての現状と問題点を整理したうえで、救急活動に焦点を当てて、高層建築内部の移動時間について、移動方向を水平方向と垂直方向に分けて単純であるが実態を踏まえたモデル化を行っている。そのうえで、導出した移動時間の分布をもとに、AEDやエレベーターの最適配置を論じている。得られた研究結果は実用的であるとともに、高層建築物の救急活動からみた評価の枠組みを与えた点で、都市計画研究の発展に寄与することが期待されることから、日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。

論文奨励賞

受賞者	平野 邦臣
作品名	ミャンマー国ヤンゴン市の都市形成における公園の成立とその変容
授賞理由	本論文は、ミャンマー国ヤンゴン市を対象に、植民地、独立、軍事政権といった政治社会体制が大きく転換するなかでの公園の変容と現代における利用実態を明らかにしている。具体的には仏教施設シュエダゴン・パゴダの門前に位置する公共空間の位置づけと利用の変遷を多様な資料を元に分析するとともに、現代の公園利用については膨大なインタビューデータを用いて利用者の属性と意向の関係など、その実態を明らかにしている。社会体制が大きく変化してきた都市における公共空間の変遷に着目したことで、都市における公園の意義と価値への新たな知見を提供している。また対象地であるヤンゴン市の歴史および都市空間に関するデータが必ずしも体系的に整理されていないなかで、資料的価値を有する基礎的情報の収集整理を行うとともに、現代の実態を詳細に把握した点は、将来性・発展性が期待される。以上より本論文は日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。

日本都市計画学会 特別功勞表彰 功績賞・国際交流賞受賞者

(受賞者敬称略)

<功績賞>

正木 啓子	元大阪府建築都市部 理事
中川 義英	早稲田大学 名誉教授
浦山 益郎	元三重大学 教授

日本都市計画学会

特別功勞表彰 功績賞・国際交流賞 選考経過

2019年日本都市計画学会特別功勞表彰 功績賞・国際交流賞は、理事・監事・会長アドバイザー会議メンバー各位に候補者の推薦を募ったところ、功績賞候補者3名の推薦があった。これを受け、表彰委員会（委員全10名）が慎重に検討した審査結果を理事会に諮って、功績賞3名の授賞を決定した。

(参考)功績賞の授賞対象

功績賞

長年にわたって都市計画学の進歩、発展に寄与してきた者でその貢献が社会的、学問的に見て顕著な者を対象とする。

功績賞

受賞者 正木 啓子（元大阪府建築都市部理事）

授賞理由

正木啓子氏は、1972年に大阪府入庁以来、建築都市部副理事兼都市整備推進課長、同副理事兼総合計画課長、同理事などの要職を歴任され、全国の都市課題の解決に資する先駆的な取り組みや、安全・安心のまちづくり施策を積極的に展開されるなど永きにわたり都市計画行政の推進に多大な貢献をされ、大きな功績をあげられた。

都市計画においては、全国的な課題であった長期未着手の都市計画道路に関し、見直しのガイドライン策定を通じ、全国に先駆けて社会情勢の変化に対応した都市計画の見直しを実践された。

都市政策に関しては、平成14年度の都市再生緊急整備地域の第一次指定を皮切りに大阪府下12地域で「都市再生緊急整備地域」指定を先導され、商業・業務、住宅等の民間都市開発事業による都市再生の推進に大いに貢献された。

安全・安心のまちづくりでも、阪神淡路大震災等を踏まえ、全国唯一の「密集市街地の都市再生緊急整備地域」の指定を先導され、当地域での防災街区整備事業へつなげ、防災環境軸となる幹線道路と沿道まちづくりの一体的整備に貢献されるなど積極的に取り組まれた。

さらに、土地区画整理事業（水と緑の健康都市）において全国で初めてPFIの導入を先導され、宅地造成・公共施設や附属施設の構築及び維持管理、保留地処分への支援など事業費の低減・平準化の実現に貢献された。

また、1996年に発足した日本都市計画学会関西支部において、事例研究委員長、関西まちづくり賞選考委員長、副支部長を歴任され、初動期の支部活動に多大なる功績を残されるとともに、大阪府初の女性土木職員として「土木技術者女性の会」第2代会長を務められ、全国の女性土木技術者の質の向上と活動しやすい環境づくりに取り組まれるなど、幅広く活躍されてきた。

これら都市計画行政における業績・貢献は顕著であり、功績賞を授与するに相応しいと判断した。

功績賞

受賞者 中川 義英（元早稲田大学教授）

授賞理由

中川義英氏は、1980年早稲田大学理工学部助手、理工学部及び大学院理工学研究科助教授を経て、91年教授となり、都市計画、交通計画、地域計画、国土計画などを専門とされ、永きにわたり研究・教育活動を実践された。

社会活動としては東京都内を中心に、1990年代から都市計画審議会をはじめ多くの委員会の委員長・座長としてご活躍され、実務的にも多くの実績を残された。特に東京都土地利用審査会会長をはじめ新宿区、世田谷区、豊島区では都市計画審議会の会長、会長代理を務められ、建築審査会、開発審査会の委員を歴任されるなど都市計画行政全般に広く携わった。また、東京都スポーツ推進協議会の副会長、世田谷区の体育連盟や体育協会の理事など「スポーツとまちづくり」の普及活動を続けられ、地域スポーツの推進が認められ2015年に文部科学大臣功労者表彰を受章している。

教育・研究分野においては、早稲田大学において卒業論文指導学生347名、修士課程学生192名、博士課程学生3名の指導を行った。また、留学生の指導は、卒業論文の指導で4名、修士課程11名、博士課程1名に対して行った。研究分野では出版図書等が15本、査読付き論文が53本、その他論説、講演、報告などが多数ある。

日本都市計画学会においては、1974年の文献委員会委員を皮切りに、学術委員会委員、評議員を務められ、国際委員会委員長として国際交流の活性化を進められた。また、1993年には石川栄耀都市計画論集の編纂にご尽力され、1999年から2003年の5年間にわたり理事、常務理事として活躍された。

以上のように、氏は、本会ならびに都市計画分野で、多大なる貢献を果たしてきており、功績賞を授与するに相応しいと判断した。

功績賞

受賞者 浦山 益郎（元三重大学教授）

授賞理由

浦山益郎氏は、1976年福井大学工学部建築学科卒業、名古屋大学大学院工学研究科建築学専攻博士課程前期課程修了、同博士課程後期課程中退の後、1978年大同工業大学助手、同講師、1991年三重大学工学部助教授、同教授として都市計画の教育研究に携わり、多くの都市計画技術者や建築技術者を輩出した。

日本都市計画学会会員として1977年から活動しており、その間、学術委員（1998～2000年）および理事（2009～10年）を歴任した。また、1990年の中部支部創設時から支部活動に参画し、中部支部監事、幹事長、副支部長、特に2009年から2年間支部長に就任し、公益法人改革時に本部のガバナンスのもと支部活動の自主的運営の継続に務め、支部事業として研究発表会や研究会支援事業の実施、支部主催20周年記念事業の開催等に主導的に係わり、支部活動の発展に貢献した。

教育・研究活動としては、①市街化調整区域スプロールの実態と要因解明等を中心とした大都市近郊の土地利用計画に関する研究、②地方都市特有の地域資源であるため池や緑地、地場産業遺産等を都市環境資源として活用する研究、③河川等の公共財や私有地の樹木群で形成される緑景観等の共有財の地域共同管理に関する研究等多くの業績がある。①はその後に展開される区域区分制度を中心とした土地利用研究を主導したものと考えられる。

実務に係わる業績としては、三重県都市計画審議会を始め、数多くの三重県や愛知県の地方公共団体の都市計画審議会や都市計画マスタープラン策定委員会他、まちづくりに係る市民活動に参画し、研究成果を都市政策や市民のまちづくり活動に反映する理論と実務をつなぐ活動により、地方都市計画の推進に大きく貢献した。

以上のように、日本都市計画学会の理事・支部長の要職を務め、都市計画分野での教育研究活動および地方公共団体の都市計画行政の推進等において多大なる貢献を果たしてきており、功績賞を授与するに相応しいと判断した。

日本都市計画学会 2018年 年間優秀論文賞受賞論文

(受賞者敬称略)

シェア型自動運転交通“Shared-adus”導入による駐車時空間削減効果

香月 秀仁、東 達志、高原 勇、谷口 守

昭和初期の京都都市計画風致地区における眺望に基づく行為許可と行政指導

- 現状変更許可申請書(昭和6-8年)にみる京都府の風致行政 -

谷川 陸、山口 敬太、川崎 雅史

特許データを用いた日本における技術的イノベーションの空間分析に関する研究

- セクター・イノベーションシステムに着目して -

竹内 啓、對間 昌宏、城所 哲夫、瀬田 史彦

家庭と乗用車から生じる市区町村別CO2排出量に関する考察

松橋 啓介、石河 正寛

イタリア第三世代の景観計画と景観保護における国の役割に関する研究

- ウルバーニ法典の景観計画の共同計画と国の景観許認可及び環境アセスメントと景観観察センターに着目して -

宮脇 勝

自己用限定型3411条例としながらも著しい市街化を許容した宇都宮市での住宅開発の特徴と集約型都市政策への影響に関する一考察

松川 寿也、丸岡 陽、中出 文平、樋口 秀

建物棟数密度の減少による延焼確率の減少効果

- 正方形敷地の仮定に基づく延焼確率分布の導出及び密集市街地における延焼リスク評価への応用 -

薄井 宏行、寺木 彰浩

2018年 年間優秀論文賞 選考経過

2018年年間優秀論文賞は、当該年の1月から12月に発表された、発表会論文177編・一般研究論文26編、計203編の中から優れた内容を有する論文を学術委員会にて慎重に検討を重ね、授賞候補を選定した。さらに候補選定結果を理事会に諮って、7編の授賞が決定した。

(参考)表彰対象

1. 表彰対象

論文

2. 表彰のための選考対象となる論文

表彰当該年の1月から12月に発表された発表会論文及び一般研究論文

論文名	シェア型自動運転交通“Shared-adas”導入による駐車時空間削減効果
著者	香月 秀仁・東 達志・高原 勇・谷口 守
授賞理由	本論文は、シェア型自動運転導入による駐車時空間消費量の削減効果について、パーソントリップデータを用いて分析している。評価できる点は、第一にライドシェアによる駐車時空間の削減に着目している点あげられる。第二にマクロ的な評価が可能な手法論を提案しており、全国レベルでの試算可能性を示している点あげられる。

論文名	昭和初期の京都都市計画風致地区における眺望に基づく行為許可と行政指導 - 現状変更許可申請書(昭和6-8年)にみる京都府の風致行政 -
著者	谷川 陸・山口 敬太・川崎 雅史
授賞理由	本論文は、風致地区内の具体事例の分析をもとに、当時の京都府における風致行政の実態を明らかにした論文である。評価できる点は、第一に、750件もの許可申請書を精査し、個々の事例を丁寧に分析している点あげられる。第二に、風致委員会答申による基準内容と基準設定前の指導内容とを比較し、どのように継承されたかまで検証している。戦前の京都府風致行政の全体像を射程においたうえで、眺望という観点からの分析が達成できている点あげられる。

論文名	特許データを用いた日本における技術的イノベーションの空間分析に関する研究 - セクター・イノベーションシステムに着目して -
著者	竹内 啓・對間 昌宏・城所 哲夫・瀬田 史彦
授賞理由	本論文は、特許データを用いてイノベーションの発生における空間的特徴について分析したものである。生産性向上によるイノベーションが期待されていることから時宜を得た論文であるとともに、機械分野と情報通信分野に違いがあること、経年的な分析により時間距離の影響が弱まっていることを明らかにしており、有益な示唆を得られていると認められる。

論文名	家庭と乗用車から生じる市区町村別 CO2 排出量に関する考察
著者	松橋 啓介・石河 正寛
授賞理由	本論文は、家庭と乗用車から生じる市区町村別の二酸化炭素排出量の推計を試みた挑戦的な内容である。評価できる点として第一に、環境省「全国試験調査」等の公表されているデータに基づく分析により、推計結果を示したことがあげられる。第二に、家庭と乗用車から生じる二酸化炭素排出量をそれぞれに推計するとともに、全国規模で検討したことによって市区町村別の比較評価までを行っている点をあげることができる。実用的な方法と推計結果を示すことによって、都市計画・都市環境研究に対して有益な示唆を与えていると捉えられる。

論文名	イタリア第三世代の景観計画と景観保護における国の役割に関する研究 - ウルバーニ法典の景観計画の共同計画と国の景観許認可及び環境アセスメントと景観観察センターに着目して -
著者	宮脇 勝
授賞理由	本論文は、2004年のウルバーニ法典制定以降にイタリアにおいて新たに進められている景観計画の普及過程を取り上げ、国の文化行政機関の果たす役割を明らかとしたうえで、我が国への示唆を得ることを試みている。総合的で詳細な現地調査に基づき、計画の内容や過程、景観コントロールの組織、手法や根拠などの特徴を多面的に論じながら国の役割を明らかとすることに成功している。日伊両国の制度比較を念頭にまとめられた諸点は、今後一層の充実が求められる我が国の景観行政に示唆を与えるものと考えられる。

論文名	自己用限定型 3411 条例としながらも著しい市街化を許容した宇都宮市での住宅開発の特徴と集約型都市政策への影響に関する一考察
著者	松川 寿也・丸岡 陽・中出 文平・樋口 秀
授賞理由	本論文は、市街化調整区域における自己用の宅地開発のみを許容する宇都宮市の開発許可条例に着目し、区域内における宅地開発の実態分析を踏まえて、集約型都市政策に与える影響を考察したものである。評価すべき点としては、膨大な開発許可情報の丹念な分析を通じて、条例が意図していないスプロール開発の進展を明快に示し、条例の課題や限界を明らかにしたことが挙げられる。本研究から得られた知見は、集約型都市政策を推進する自治体の線引き制度や立地適正化計画のあり方に有用な示唆を与えることが期待できる。

論文名	建物棟数密度の減少による延焼確率の減少効果 -正方形敷地の仮定に基づく延焼確率分布の導出及び密集市街地における延焼リスク評価への応用-
著者	薄井 宏行・寺木 彰浩
授賞理由	本論文は、建物棟数密度から壁面間距離を推定し、これに既往の敷地面積分布や壁面間距離に対する延焼発生確率を組み合わせることで、建物棟数密度による延焼の発生しやすさの違いを定量的に説明したものである。大胆な仮定の下、緻密な議論を展開することで、簡明な数式による記述を達成している。その上で、論文中の仮定が延焼の発生しやすさの推定にどのような影響を及ぼすかという点についても論じ、提案する数式により推定される延焼発生確率が安全側に寄っていることを示しており、有益な知見を提供することに成功している。